

## 出雲織 のき白鳥の里

数世紀にわたり、秋になると安来の平野部には、収穫後に田んぼに残された米粒を食べに、シベリアから白鳥の大群が渡ってきています。屋根付きの展望台からは、白鳥を邪魔することなく観察・撮影することができます。近くには、築100年の茅葺き民家を美しく復元した古民家があり、これは出雲織の織物を織っていた典型的な伝統的民家です。20世紀初頭までは織物は家内工業であり、各農家には機織り機やその他の生地生産のための材料を置くスペースが設けられるのが一般的でした。現在、この古民家は、染色や織りを学ぶコミュニセンターとして機能しています。いくつかの伝統的な機織り機と糸車が、大きな畳の部屋に設置されています。隣の部屋には伝統的な囲炉裏があり、お茶を飲んだり、会話を楽しんだり、暖を取ることができます。センターは一般公開されています。